

平成30年度 第3回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成31年3月7日（木）午後6時～8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 多目的ホール

【出席者】 委員：植田、遠山、長山、松尾、堀米、前田、青木、益田、橋本、友成各委員
事務局：村上文化観光産業部長、村上産業振興課長、黒澤産業振興係長、桑野主査

【欠席者】 武山委員、富田委員、太田委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

- (1) 前回会議の振り返り
- (2) 専門部会「経営者・後継者・商店会」報告
- (3) 専門部会「創業者・従業員」報告
- (4) 新宿区産業振興会議 第4期報告書 骨子（案）について
資料1、資料4に基づき、事務局より説明した。
資料2、資料3に基づき、両専門部会長より説明した。

3 主な発言内容

◎専門部会「経営者・後継者・商店会」について

- 青年部や女性部など、組織の枠を超えた交流等を積極的に発信していくべき。
- 商店会における取組みや現状を会員間で共有できる仕組みがない。業種によって時間を合わせる 것이難しいため、商店会員間の情報共有について工夫が必要。
- 物販が減少し、飲食業が増加している中、商店会運営において、昼と夜を調和していくことが必要で、切り分けて議論していくべき。
- 商店街は、場の機能・商業機能・組織機能が関わり合わないとうまく機能しない。現状は、それぞれの商店会で課題があり、行政による支援も必要である。

◎専門部会「創業者・従業員」について

- 情報発信の強化が求められており、次年度は市内連携をしながら進めていく必要がある。
- 従業員教育については、個々の企業が行い、できないところは中小企業家同友会等の団体の取組みでフォローしていく。区の役割としては、気軽に相談できる場になることや様々な情報を提供できる場となることではないか。
- 日々の課題解決に繋がるソーシャルビジネスを高田馬場創業支援センターで実施すると良い。

◎新宿区産業振興会議 第4期報告書 骨子（案）について

- 報告書の冒頭で、「持続的に発展する産業システムの形成」についての説明が欲しい。
- 産業システムの意味を分かりやすくするため、経営者、後継者、商店会、創業者、従業員がどのような形で連関しているのか、相乗効果をもたらしているのかを1枚の絵で見せると良い。
- 産業振興会議によって変わったことを報告書に書き込んで欲しい。
- 地域の主婦や地域住民、税理士などが関わりながら新宿を盛り上げ、それが産業システムとして「多様性」

「多種混在」「多国籍」の新宿らしさをアピールできると良い。

- 新宿らしさを活かしながら環境の変化に対応できる、持続的に発展する産業システムの形成を検討していく必要がある、それに対応した人材育成の在り方や検討事項を整理した報告書にしていくことが望ましい。

5 次回日程について (予定)

産業振興会議

日 時：平成31年6月下旬

会 場：BIZ新宿

6 閉 会